

(第3種郵便物認可)

中

原爆予告「聞いた」

同僚や先生から 広島市の被爆者ら証言

広島市の原爆被爆者の中に、投下の数日前に「広島に新型爆弾が投下される」という話を聞いた」と証言する人が少なからずいる。被爆体験の証言録にも同様の記録が残るが、公式的には何の警告もなかったとされ、真偽は不明だ。被爆者らは七十一年度の「原爆の日」も複雑な思いで迎える。

(安福晋一郎)

「八月五日に広島に大型爆弾を 投下するから、市民は避難せよ」は、爆心地から約二百六十メートルの芸備銀行(現広島銀行)で勤務 「全滅区域」内にあった。中に被爆した高蔵信子さん(89)は、敵国のヒラ。「いいかげんな内 広島市安佐北区は一九四五(昭和二十)年八月四日、ろ、一つ年 下で仲の良かった同僚の宇佐美君 朝、宇佐美さんと二人、銀行内の 子さん(当時)から、こんな 内容の米国の宣伝ヒラ(伝単)が



「8月5日に大型爆弾が投下されると聞いた」と話す高蔵信子さん(広島市安佐北区)

公式には警告なし

その直後に閃光と爆風が襲った。体ごと天井まで巻き上げられ、床にたたきつけられながらも二人で外へ脱出した。宇佐美さんは一週間後に亡くなった。

数日後の新聞で、投下されたのが原子爆弾だと知った。高蔵さんは「日米の時差で五日となっていたのかもしれない。なぜ自分だけ生き残ったのか、申し訳ない気持ちでいっぱい」と悔やむ。

被爆者の証言を収集している国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(広島市中区)にも似たような記録が残る。当時十四歳で高等女学

「一人は二六、七歳の若い兵隊で、何かおぼろげな捕虜になったから恐ろしいのか?」が全滅するような爆弾が投下される。この後は憲兵隊に渡されたようである(増本)二人の捕虜を加えて、このころアメ(男)の証言が加わったという。戦後、米国人捕虜が「広島が全滅するような爆弾が投下され」と打ち明けたとされる。広島原爆被災誌の記述

校一年だった女性は原爆投下の二日ほど前、学校の先生に「広島に今までにない兵器が使われるから、帰ってお父さんお母さんに話しておきなさい」と言われたと記している。

広島市発行の広島原爆被災誌には、四五年七月二十六日に、広島市近くの山中に墜落した米軍機の搭乗員二人が捕虜となった際、通訳を通じて「近いうちに広島が全滅するような爆弾が投下される」と証言したと記されている。

しかし広島平和記念資料館(広島市中区)によると、原爆投下を予告したとの記録やヒラの存在は確認されていない。米公文書では、大統領に助言する暫定委員会 が投下前に「日本側に事前の警告を与えることはできない」と決めたこととされている。

一方、同資料館の学芸員は「極秘であるべき情報を敵国の広島市民が知っていたとは考えづらいが、少なからずある証言を否定はできない」と話す。

高蔵さんは今も、投下予告に関する情報を信じて行動できたとはいえない。「下賤な敵国と教えられ、とても事実だと想像できなかった。それは仕方ないこと」